

# 看護職員の確保定着への取り組み

座長 竹内 榮二

第62回国立病院総合医学会  
(平成20年11月12日 於東京)

IRYO Vol. 63 No. 12 (784) 2009

キーワード 看護教育の改善, 看護師の仕事満足感, 看護の質

西暦2005年に18歳人口は136万人, 75歳人口は1164万人であったが, 2030年にはそれぞれ89万人と2266万人に, 日本の少子高齢化の進行は驚異である。将来的にもさらに深刻な課題となる「看護職員の確保定着への取り組み」というシンポジウムは今学会でも最も重要なシンポジウムの一つと考えられた。

最初に国立病院機構本部関東信越ブロック事務所佐々木仁史さんから他の組織の病院の実状を-就職情報誌からみた処遇の比較-精細に分析し, 魅力あるホームページの必要性を強調。職員自身が胸を張れる病院になることの重要性も言及。次は東京大学医学部附属病院榮木さんから, いち早く看護師確保300人に動いた成功経験より, 病院トップのリーダーシップの重要性と, 受け入れた後の病院全体による新人教育の重要性をアピール。次いで日本赤十字社の浦田さんから離職防止における教育の重要性と潜在看護師の活用の実績と魅力ある職場づくりの大

切さがアピールされた。また国立病院機構京都医療センター 森田さんからも新卒看護師の教育を重視する早期離職防止対策の実績報告があり, 最後に国立病院機構別府医療センター附属大分中央看護学校 西村さんから生徒の“NHOに対する思い”の分析と教員の教育力を高める努力についての報告があった。

方向性として①教育体制の充実(新人教育, 現任教育, 生涯教育, 専門学校と大学化へのジレンマもあるが, 看護大学院の導入など), ②女性医師確保も視野に入れての保育所の完備(24時間保育, 病児保育が強調される), ③アメニティに優れた宿舍の完備, ④ワーク・ライフ・バランスを考えた多様な勤務形態の実行などが確保対策の切り口と考えられた。「Topの姿勢」と, いわゆる「買ってもらえる魅力ある商品力を持つことの重要性」が強調された。

国立病院機構名古屋医療センター 副院長

別刷請求先: 竹内榮二 国立病院機構名古屋医療センター 副院長 〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1  
(平成21年1月30日受付, 平成21年11月13日受理)

Symposium: An Endeavor to Recruit Nursing Staff: How Can We Offer Them the Feeling of Satisfaction in Working?  
An Endeavor to Recruit Nursing Staff

Eiji Takeuchi, NHO Nagoya Medical Center

Key Words: improvement of nursing education, feeling of satisfaction in working, quality of care